

精華町まち・ひと・しごと創生有識者会議第1グループ議事摘録

日時：8月19日（水）13時30分～15時30分

場所：庁舎6F委員会室

1 開会

2 資料説明

【事務局】事務局より資料及び今後のスケジュールの確認

3 ブレーンストーミング（意見交換）

今川氏を座長として、意見交換

【トーマツ】人口ビジョンにおける精華町の目標人口の考え方

目標人口の考え方（配布資料④精華町人口ビジョンのP19～P21）、目標人口は2022年（総合計画最終年）に3.8万人程度を目指す。また、2030年～2040年は3.8万人程度を維持し、2045年以降は緩やかな減少に抑える。

配布資料④P18の人口シミュレーション「中位（移動）・高位②（出生）」をベースに、2035年以降、出生率が国の算定した希望出生率（1.8）に徐々に近づくとし、推計を行った。若者の流出を抑制するとともにUターンを促す。

宅地開発による転入者の増加を図り続けることは困難であることから、出生率を高める施策を随時実施していく。

人口ビジョンに関して意見交換

【今川氏】人口ビジョンに関して、堀井氏から説明があったが、質問や意見を出して欲しい。

（特になし。）

【事務局】地域創生戦略素案の説明

・【基本目標1】誘客拡大に向けた情報発信の強化

交流人口拡大に向けて、地域の魅力をインターネットや動画等の多様なメディアで情報発信するほか、サブカルチャーにおける創作活動支援等、けいはんな学研都市における多様な文化の創造・発信を促進する。

・【基本目標 2】 地域に誇りを持つ教育の推進

未来を担う子ども達に、世界最先端の科学と文化が集積する研都市にふさわしい学びの機会を提供するため、「科学のまち子ども」プロジェクトを推進するとともに、地域公共人材の育成を図る。

・【基本目標 3】 ふるさとの魅力づくり

各地域の歴史・景観をはじめとする地域資源を再発見し、情報を整理・集積し公開等することで地域の活性化につなげる。また、より多く住民が「ふるさとは“ここ精華町”」と感じられるよう、子どもや高齢者、障害者等にやさしい情報発信を推進する。

・【基本目標 4】 地元産品・観光のブランド力強化

地元産品の販売力向上や販路拡大による六次産業化へ向けた取り組み、地域資源の観光コンテンツ化等による地域ブランドの創造・強化を図る。

・【基本目標 5】 健康・スポーツによる地域活性化

ツアー・オブ・ジャパン京都ステージ開催を契機に、自転車を核とした交流人口の増加、地域のPRを図る。また、町を挙げて健康づくりに取り組む「せいか365プロジェクト」の推進に向けた情報発信に取り組む。

地域創生戦略素案に関する意見交換

【今川氏】 基本目標 1 の誘客拡大に向けた情報発信の強化で意見があれば発言して欲しい。

(特になし)

【今川氏】 情報発信に関してはなかなか出にくいかもしれない。また後でもよいので、あれば発言して欲しい。次に、基本目標 2 の地域に誇りを持つ教育の推進に関して意見が欲しい。

【中村氏】 精華町の強みは、前回の議論でもあったが科学技術に関するところ。これに関しては議論を重ねるまでもないため、それ以外のことをお話したい。今日のために、企業にヒアリングを行った。その際、科学技術に携わる方々でも、組織管理ができるような人材が必要になると力説されていた。日本とアメリカのシリコンバレーとの違いは、技術者であっても経営のビジョン、ベンチャーマインドを持った人がシリコンバレーには多いということである。技術者であ

っても財務諸表を読める人材がいなければ組織は動かないと聞いている。また、男女共同参画社会の実現、ワークライフバランスの面では、小学生の段階で自分がどういうことができるのか、具体的に言えば個人生活、家庭生活、社会生活、職業生活の4つの中で何ができるかを考えさせることが必要だと思う。また、グローバルなコミュニケーションを図る上でも英語教育の推進が必要である。

【事務局】 けいはんなプラザにたくさんのベンチャー企業があり、小学生の職場体験でベンチャー企業との交流を図っている。財務の教育を盛り込んでいくことは今後の課題と考えている。また、女性の社会参画は重要なテーマであると捉えている。高齢化が進んでいく中で、精華町の地域づくりに女性の関わりが大事だと考えている。それに伴い、ワークライフバランスを小学生の段階で教育していくことも必要だという認識を持っている。

【吉田氏】 精華町商工会では、次世代の経営者の育成を図るために経営術の講座を実施している。今まではそういった勉強会では参加者が日銭を出して、講師を呼んで実施していた。今年、経営支援発達計画に関し、国から申し出があり、支援計画に申し込んだ。経営力アップのための援助を国からもらい、若い新たな経営者の育成や後継者の育成につなげていこうとしている。商工会の副会長がシリコンバレーに住んでいたことから、前回の会議のシリコンバレーの話に、副会長は興味を持っており、シリコンバレーとの共通点を若い商工会のメンバーに話をすれば、何か良い影響があるだろうという話が出ていた。男女共同参画について、保育所はあるが、駅前に子供を預かるような託児所のような施設があることが望ましいと思う。女性にとって子育てをしやすく、働きやすい職場づくりを商工会では検討している。ツアー・オブ・ジャパンでも、お茶の京都ということで、スイーツ店を回って簡単な特産物、お土産を開発するような企画を検討している。5年計画を立て、京都という点を前面に出していきたいと考えている。

【常山氏】 科学体験フェスティバルには2,200人の参加者があった。1回目では相当数集まったため、毎年続けるとしたら、けいはんなプラザでは施設面で限界がある。旧私のしごと館(KICK)のスペースがあるため、それを活用することも念頭においていた方が良く考えてい

る。

【事務局】 科学体験フェスティバルは精華町だけでなく、近隣の市町村の方にも大変好評だったため、今後も継続していきたい。会場等の問題に関しても念頭に入れながら体制整備を検討していきたい。

【中村氏】 研究者の出前授業でもコーディネーターが必要だと思う。

【事務局】 出前講座を行っており、担当者が1名いる。しかし、科学のまちの子どもたちプロジェクトを推進していく上で、体制の変更をしないと発展していかないと考えている。

【森家氏】 関東でもけいはんな地区を知っている人がいる。科学のまちを進めていく上でどのようにアピールしていくか、精華町が中心になってくると考えられるため、工夫を持って進めて欲しい。また、仕事の創出という面で、どのように事業化していくかという観点が入るとなるとおおよいと考える。

【事務局】 東のつくばに対して、西のけいはんなということを知らない人も多い。けいはんな学研都市をアピールするためにも、科学のまちの子どもたちプロジェクトを推進し、シティプロモーションに繋げていきたい。まち・ひと・しごと創生ではあるが、精華町では特にシティプロモーションを施策の柱に据えて戦略を組んでいくことをご理解いただきたい。

【今川氏】 基本目標3のふるさとの魅力づくりに関して意見をいただきたい。

【常山氏】 基本目標3-4の環境・アグリバイオパーク構想とはどういう内容か。京大の農場が木津川市に来ることが関係しているのか。

【事務局】 参考資料②京都府の地域創生戦略の23ページを参照いただきたい。地方創生において自治体との連携を進めるように国から言われており、この内容に関しては京都府と精華町で一致している内容であるため、京都府と連携していく意味で掲げている。京大の附属農場が木津川市に来たり、府立大学の附属農場が精華町にあったりす

ることも、構想に含めて進めていく。また、京都府が KICK でエネルギーだけでなくバイオや農業に関してオープンイノベーションを進めているが、その中のひとつのテーマとしても理解している。

【常山氏】 デジタルミュージアムの詳細はどのようなものか。

【事務局】 精華町は民具を代表する歴史的な資料、民族的な資料の保存状態が他の自治体に比べて非常に良く、集積の数も多いという評価ももらっている。しかし、集積したデータが約 1000 点以上あるが、活かしきれていない現状がある。そのような民具等をデジタル化して、一般の方にも見てもらえるように仮想的な博物館のようなものの整備を構想している。

【森家氏】 スマートシティ構想の推進に関するイメージはどのようなものか。

【事務局】 現在、京都府を中心として関係機関が連携して進めている事業である。昨年までの 5 ヶ年で次世代エネルギーの実証事業をけいはんなで進めてきた。それを受けて、5 ヶ年で積み重ねてきたことを事業化していくために KICK でスマートシティ構想の取り組みが行われている。新しいエネルギー創出のための取り組みについて、京都府や京田辺市・木津川市と事業化に向けて連携を検討している。

【今川氏】 基本目標 4 の地元産品・観光のブランド力強化に関して意見をいただきたい。

【本政氏】 論点から少し離れるかもしれないが、京都は修学旅行生が非常に多い。精華町の強みである学研都市ということを修学旅行生向けの観光コンテンツとして構築し、職業体験や職場体験ができれば、シティプロモーションに繋がる一つの切り口になるのではないか。

【事務局】 町内にある 3 つの中学校で職場体験プログラムを実施しているが、修学旅行生を受け入れる場所や施設に限りはある。ただ、最近では企業の立地も進んでいるので、産業ツーリズムという観点で観光コンテンツを立ち上げる余地はあると考えている。

【中村氏】 グローバル化という観点からの要望だが、日本とアメリカでは学期が異なる。アメリカの学生は6月ぐらいから夏休みに入るが、日本では中間試験等の最中であるため、観光ツーリズムで海外から来る子どもたちにとってのアクティビティがない。修学旅行も時期は決まっており、海外の学生が来日する期間も想定できるので、上手にコンテンツがかみ合えば、年中学生を呼び込むことも可能になるかもしれない。

【吉田氏】 商工会の活動に関してだが、各会社に向けて職業体験をしてもらうためのまちゼミを11月に開催する予定をしている。

【中村氏】 先日、九州でロボットが受付をするホテルに関して報道があったが、精華町でも同じようなことができればさらによい町になると思う。

【事務局】 コンテンツとしてきっかけになるようなものはあるので、今後検討していきたい。精華町でもATRやNICTのような施設でロボット研究を行っている。アピタで道案内をするロボットの実証実験をしたこともある。そのときはテレビでも取り上げられた。

【今川氏】 基本目標5の健康・スポーツによる地域活性化についてどうか。

【中村氏】 精華町はまだ若い人が多いが、今後介護の必要性が増す。全国的にも電子カルテやテレビ上での診察等、医療介護の研究の取り組みが一般化されていくため、それを踏まえることが必要だと考える。若い世代の人にUターンしてもらうために重要なことは、やはり医療介護の分野だと思う。技術面では、精華町は先進性があるので、全国でもモデルになるように、医療介護分野に先進的に取り組んでいくとよいのではないかと。

【事務局】 精華町では、健康でいられるまちづくり、高齢でも地域活動ができるまちづくりを追及していきたいと考えている。基本目標5で掲げている事業は、医療介護に関する施策を考えないというわけではなく、特にシティプロモーションの観点で重点的な施策を掲げている。

- 【今川氏】 マイナンバーと医療介護を組み合わせると何かできないか。
- 【事務局】 15ページの5-3に書いているとおり、精華町としても取り組んでいきたいと考えている。
- 【吉田氏】 JRと近鉄の間で高層ビルを建てるという話を聞いたことがある。実現可能かどうかわからないが、お年寄りが独居している世帯が多いことから、そのような人たちを駅の近くのマンション等に住んでもらい、空いた家には若い人に住んでもらえるようにすると、町外からの転入もあり、流出抑制に繋がる。集合住宅では子供が増えたときに手狭になり、一戸建てを建てようとしても精華町は土地が非常に高い。高齢者住宅用のマンションを駅前に建ててもらえると発展するかもしれない。
- 【事務局】 高齢化に伴い、空き家の問題が出てくると考える。空き家対策も今後の検討課題であると認識している。
- 【今川氏】 その他に全体を通して意見や言い足りないことはないか。
- 【森家氏】 基本目標4や5において、地域産品を売り出す場合、売り出すための工夫や活用の仕方がポイントである。また、健康管理に関して、良いモデルを作るつもりで実施して欲しい。
- 【吉田氏】 精華町ではケールの栽培を行っている。そのケールと抹茶を使ったスイーツの開発を町内の菓子店と検討している。
- 【事務局】 PRの工夫としては、昨年試験的にラベルを精華町のキャラクターにして特産品を東京で販売した。また、秋葉原で販売しないかという話もあり、精華町のキャラクターを活用した販路の拡大が検討できると考えている。ヘルスツーリズムに関して、歩数計をスマートフォンのアプリとして制作途中であり、全国で使ってもらえるような仕組みづくりができればと考えている。また、ツアーオブジャパンがあるため、来場客への土産や秋葉原で販売できるような商品も考えていきたい。
- 【中村氏】 セイカちゃんのクッキーなどがあれば消費者も欲しいと感じるの

ではないか。京都市内の人が集まるところに精華町の特産品を扱ったアンテナショップを作るのもよいと思う。

【今川氏】 京都でもくまもんグッズが売っている。

【吉田氏】 京都銀行と京都中央信用金庫あたりは土曜・日曜がシャッター街のようになっており、商工会に場所を貸して欲しい。

【常山氏】 学研都市として今後すべきことは、精華町と同様にプロモーション。精華町のプロモーションと学研都市のプロモーションの歩調があえばなおよいと考える。

4 事務連絡

【事務局】 今後のスケジュール等に関する説明

5 副町長挨拶

以上